

## 平成 30 年度 研究開発評価シンポジウムについて（案）

### ◆シンポジウム名

平成 30 年度研究開発評価シンポジウム  
～研究開発評価が実現してきていることと実現すべきこと（P）～

#### 1. 趣旨・目的

我が国の研究開発評価は、「国の研究開発評価に関する大綱的指針（以下、「大綱的指針」）」（平成 28 年 12 月最終改定）に基づき、各府省等がより具体的な指針を策定し、評価を進めているところである。文部科学省は、平成 29 年 4 月に「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針（以下、「文部科学省の評価指針」）」を改定して評価を推進してきた。

文部科学省では、今年度、7（P）大学を対象に、研究開発を推進するための取組における研究開発評価の活用状況や評価の実務における課題等について、ヒアリング・意見交換を行った。このなかで、複数の大学で、個人の研究から研究センター化まで研究開発段階に応じた研究支援を実施しており、各段階において評価が活用されていた。本シンポジウムでは、それらを参考事例として紹介する。

また、パネルディスカッションにおいては、第 1 部の講演内容も踏まえ、研究開発評価の機能や役割を整理しながら研究開発評価が実現してきていることを確認するとともに、研究開発評価が今後実現すべきことについて考える。

今後、国、資金配分機関、大学及び独立行政法人等の研究開発機関の研究開発評価・研究開発マネジメントの推進の参考となることを期待し、評価関係者の意識の向上や評価関係者同士の連携促進を目的に開催する。

#### 2. 対象者

国及び研究開発機関において、研究開発評価を担当する部署の職員、研究開発に係るマネジメントを担当する者等を対象とする。

#### 3. テーマ

～研究開発評価が実現してきていることと実現すべきこと（P）～

##### ◆第 I 部「研究開発現場における研究開発評価・研究開発マネジメント等の取組事例について」

第 I 部では、今年度実施した 7（P）大学に対するヒアリング・意見交換の結果から、研究開発評価・研究開発マネジメントの取組事例を紹介する。

##### ◆第 II 部「研究開発評価が実現してきていることと実現すべきこと（P）」

第 II 部では、研究開発評価が実現してきたことについて、第 1 部の講演事例を踏まえながら確認するとともに、今後、研究開発評価が実現すべきことにはどのようなことが考えられるか、パネル・ディスカッションを行う。

#### 4. 開催日等

開催日 平成 31 年 3 月 11 日（木） 13 時 30 分～16 時 55 分（3 時間 25 分）

会場 全日通霞が関ビルディング 8 階 大会議室 A

定員 120 名程度

平成30年度 研究開発評価シンポジウム  
 ～研究開発評価が実現してきていることと実現すべきこと（P）～

プログラム(案)

※講演演目、登壇者、時間配分は暫定

開会	
12:50	開場
13:30	開会
13:30～13:35	主催者挨拶（文部科学省科学技術・学術政策局長 松尾 泰樹）（P）
第Ⅰ部（講演） 「現場における研究開発評価の状況と取組事例について」	
13:35～13:50 (15分)	1. はじめに ー本シンポジウムの趣旨について (政策研究大学院大学 林 隆之) ー研究開発評価をめぐる情勢（P） (文部科学省 科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官(制度改革・調査担当)) 工藤 雄之
13:50～14:20 (30分)	2. ○○大学における研究開発評価の取組① (○○大学 ○○ ○○)
14:20～14:50 (30分)	3. ○○大学における研究開発評価の取組② (○○大学 ○○ ○○)
14:50～15:20 (30分)	3. ○○大学における研究開発評価の取組③ (○○大学 ○○ ○○)
15:20～15:30 休憩（10分間）	
第Ⅱ部（パネル・ディスカッション） 「研究開発評価が実現してきていることと実現すべきこと（P）」	
15:30～16:50 (80分)	5. パネル・ディスカッション モデレーター：林 隆之（政策研究大学院大学教授） パネリスト：
閉会	
16:50～16:55	閉会挨拶